

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	
Title(English)	Study of optical coupling between silicon and topological waveguides for on-chip optical angular momentum multiplexing
著者(和文)	各務響
Author(English)	Hibiki Kagami
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12373号, 授与年月日:2023年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:西山 伸彦,植之原 裕行,中川 茂,廣川 二郎,庄司 雄哉,岩本 敏
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12373号, Conferred date:2023/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	要約
Type(English)	Outline

論文要約

THESIS OUTLINE

系・コース： 電気電子 系
Department of Graduate major in 電気電子 コース
学生氏名： 各務 響
Student's Name

申請学位 (専攻分野)： 博士 (工学)
Academic Degree Requested Doctor of
指導教員 (主)： 西山 伸彦
Academic Supervisor(main)
指導教員 (副)：
Academic Supervisor(sub)

要約

Thesis outline

本論文は「Study of optical coupling between silicon and topological waveguides for on-chip optical angular momentum multiplexing」と題し、英文7章から構成されており、次世代多重化技術である光渦多重化に不可欠な要素であるデマルチプレクサの実現に向けた研究結果を報告する。本研究の光渦デマルチプレクサは、トポロジカルフォトニクスの特徴を生かし、小型、パッシブ、無電源動作が期待される。

第1章「Introduction」では本研究の背景について説明し、その目的および本論文の構成を述べた。まず、近年の光通信に要求される通信容量がますます増大しているなかで、既存の通信方式のみでは限界が迫っていることに触れ、その解決方法として光の新たな自由度を用いた多重化が有効であり、中でも光渦多重方式を導入することが有望であることを述べた。光渦多重方式を実用化していくにあたって、MUX/DEMUX素子が必要となり、その素子の消費電力を低く抑えることが望ましく、このような素子を実現するには、トポロジカルフォトニクスの技術を用いることが望ましいことを示した。

第2章「Requirement of Performance of OAM MUX/DEMUX」では、光渦多重伝送およびトポロジカル光渦デマルチプレクサの概要を説明し、実用化する場合に要求されるトポロジカル光渦デマルチプレクサに必要な仕様を算出した。その結果、短距離通信かつIM-DD方式で使用するために、-20.50dB以下のクロストークと、10.00dB以下の挿入損失が必要であることを示した。

第3章「Horizontal coupling of Si wire waveguide and topological waveguide」では、トポロジカルフォトニクスについて説明し、トポロジカルフォトニクス全体から見た本研究の位置づけについて述べた。既存の細線導波路型光回路においてトポロジカルフォトニック結晶を一つのデバイスとして扱う際に、必ず発生するモード不整合に起因する結合損失を抑制するためのトポロジカルモードカプラーの設計・作製を行った。結果として、トポロジカルモードカプラーを利用した場合、5.12dB結合効率を上昇させられることを確認した。さらに、トポロジカルフォトニック結晶を作製する際に極めて重要なICP-RIEについて詳細な条件を設定し、新たな作製レシピを作成した。その結果は4章に記載しており、トポロジカルフォトニック結晶の伝搬損失を波長1550nmにおいて-0.20dB/cellまで低減したことを確認し、トポロジカルモードカプラーの結合損失についても波長1550nmにおいて-2.3dB/taperまで低減できることを示した。

第4章「Vertical coupling of free space and topological waveguide」では、トポロジカル光渦分波器として動作させる場合のトポロジカルフォトニック結晶への垂直方向からの入射光の必要性について検討した。理論解析により、欠陥構造が結合効率の向上に有効であることを示し、16.18dBから16.49dB(波長1520-1530nm)の向上が確認された。また、円偏光の回転方向によって伝搬方向が変化することを確認し、この伝搬方向の一方方向性を欠陥構造の導入により13.65dB上昇できることを示した。実際に欠陥構造を用いてトポロジカル導波路を作製し、円偏光を垂直方向から入射させたときの結合効率は-16.46dB、最大の一方方向性は12.64dBと見積もられた。また、解析において、欠陥構造の動作波長を変化させるために、欠陥の周辺環境を変化させることを提案した。

第5章「Optical vortex demultiplexer design with band-tuned topological waveguide」では、トポロジカルフォトニック結晶のフォトニックバンドを意図的にシフトさせるバンドチューニングを施し、単一光渦モードを持つトポロジカル導波路を提案した。モード分布を確認し、単一光渦モードを持つトポロジカル導波路を構築した。また、バンドチューニングを行ったトポロジカルフォトニック結晶を集積化したトポロジカル光渦デマルチプレクサを設計した。波長1530nmにおいて、-5.42dBの最小クロストークを確認した。

第6章「Evaluation of optical vortex demultiplexers」では、これまでに得られた成果を合わせて、トポロジカル光渦デマルチプレクサの作製および評価を行った。円偏光光渦($m = |1|$)を波長1490nmで入射させた場合のクロストークを評価したところ、最小のクロストークは-4.78dBとなることを示した。

第7章「Conclusion (結論)」では、本研究で得られた結果を総括した。